

橋梁研修の講師を務めました

(財)熊本県建設技術センターの研修会「橋梁計画・設計」で、講師を務めたのでご報告します。研修会は、橋梁計画・設計の初心者(県・市町村職員5年程度の経験者)を対象として、橋梁の形式選定に関わる計画、および設計の仕方やチェックポイントについて説明を行い、さらに一方通行の研修とならないように設計演習を加えて工夫してみました。今回の研修で得た知識が、今後の業務のお役にたてば幸いです。

- ◇ **研修場所:** (財)熊本県建設技術センター
- ◇ **日時:** 平成21年9月10日(木)~11日(金)
- ◇ **受講者:** 熊本県・市の職員10名、および地元の建設コンサルタント19名、合計29名の参加予約がありました。(ただし欠席者が4~5名)
- ◇ **研修内容:**

実施日	研修内容	講師
9/10 (木)	鋼橋の計画と設計	東京本社 小西俊之
	鋼橋の設計演習	大阪支社 三代正信
	PC橋の計画と設計	東京本社 花島 崇
	PC橋の設計演習	大阪支社 前田雅夫
	橋梁の紹介	大阪支社長 塩田良一
9/11 (金)	下部工の計画と設計	東京本社 小松正貴
	下部工の設計演習	大阪支社 蔭山路生
	アセットマネジメント	取締役社長 古川 毅
	アセットマネジメントデモ	東京本社 井上 靖
	点検・補修計画の実際	東京本社 林 浩二

◇ 研修を終えて

熊本県建設技術センターで行う研修会は年間で35回あり、今回の研修は第25回目でありました。研修人数が集中するのは8月までであり、職員やコンサルタントの方々も発注・受注作業などの関係で、9月以降になると応募者が減少するそうです。

今回の研修には、5択問題や設計計算問題の演習を取り入れました。事前に電卓を持参するように案内していましたが、受講者のとまどい(SI単位の桁数の多さ)や、限られた時間内での回答などに難がありました。

受講者のレベル把握が難しく、技術的にすごく易しい話や専門的な話が混在したため、受講後のアンケート調査をする必要があると感じました。ただし、古川社長の「アセットマネジメント」が一番の関心事項であるようで、会場内に一体感が感じられました。



研修会風景



研修会風景(講師:蔭山・小松)

熊本県の国指定重要文化財(石橋)めぐり

研修会のあと、熊本県の石橋めぐり(2橋)をして参りましたので、報告します。

霊台橋(れいたいきょう)

- ・橋長：90.0m、橋幅：5.45m
- ・径間：28.4m
- ・完成：弘化4年(1847年)



◇ コメント

重厚な風貌を持ちつつ、ゆるいカーブを持つ高覧がなんとも優美な面持ちでした。また、橋につながる護岸も綺麗でした。通潤橋の7年前に作られた橋であり、この橋の架設技術が通潤橋の参考にされた橋といわれます。そう言われて見ると造りが似ている気もします。橋がよく見える絶好の場所(撮影したところ)にお食事処があり、ここで橋を見ながら酒を飲むと美味しいだろうなあと思いました。

通潤橋 (つうじゅんきょう)

- ・ 橋長：75.6m、橋幅：6.3m
- ・ 径間：27.9m
- ・ 完成：嘉永7年(1854)年



◇ コメント

橋のたもとにある案内板で通潤橋の歴史について学びました。簡単にいうと通潤橋は水不足に悩む住民を救った水路橋で、これを造るためには、当時の人のさまざまな技術が集約された橋とのことです。アーチの基部には、熊本城の石垣を思わせる武者返しがついており、どっしりとした重厚さを感じました。水面に浮かぶアーチの姿、アーチの間より見える風景も美しく、自然と調和した美しい橋でした。